

20180810

保物セミナー2018
「世界のエネルギー事情とこれからの保健物理」
平成 30 年 11 月 15 日(木)～11 月 16 日(金)
大阪科学技術センター8 階大ホール

1 日目

平成 30 年 11 月 15 日(木) 13 時 00 分～20 時 00 分

総合司会：塩田博明 ((特非)安全安心科学アカデミー)

薮下延樹 (非破壊検査株)

開会の挨拶

13 時 00 分～13 時 05 分

挨 拶：辻本 忠 実行委員会委員長 ((特非)安全安心科学アカデミー 理事長)

13 時 05 分～17 時 45 分

テーマ 1 これからのエネルギー問題と世界の情勢 その 1

世界の人口は 2050 年には現在の 76 億人が 100 億人になるかもしれないと言われている。経済の成長は人口の多い新興国の台頭が著しい。それに伴い、世界のエネルギー消費量は人口増加と経済の成長が大きな要因となり年々増え続けている。しかし、地球のエネルギー資源は無限ではなく、エネルギー問題は地球全体の問題であるが、その捉え方は国によって異なる。

そこで、エネルギー問題の第一人者である山地憲治氏より世界のエネルギー問題についてお話しを頂き、次に各国のエネルギー問題については、日本については石原慶一氏に、台湾については謝牧謙氏より、中国については郭秋菊氏よりご講演頂き、最後にコメンテーターとして小林雅治氏にまとめて頂く事にした。

企画担当：(特非)安全安心科学アカデミー (15 周年記念国際シンポジウム)

座 長：下 道國 (藤田保健衛生大学 客員教授)

特別講演：世界のエネルギー問題 (講演 50 分、質疑 10 分)

演 者：山地憲治 ((公財) 地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長)

演題 - 1: 日本のエネルギー問題と今後の方向性 (講演 50 分、質疑 10 分)

演 者：石原慶一 (京都大学 教授)

休憩 15 時 05 分～15 時 15 分

演題 - 2: 台湾のエネルギー問題と今後の方向性 (講演 50 分、質疑 10 分)

演 者：謝 牧謙 ((社)中華民国核能学会 顧問)

演題 - 3: 中国のエネルギー問題と今後の方向性 (講演 50 分、質疑 10 分)

演 者：郭 秋菊 (北京大学 教授)

総合討論： (30 分)

コメンテーター：小林雅治 ((一社) 日本原子力産業協会)

集合写真：17時45分～18時00分

(8階大ホールにて)

18時15分～20時00分

ボイリング・ディスカッション

「これからのエネルギー問題と世界の情勢」その2

(フリートーキング)

これからのエネルギー問題及び原子力発電問題等講演会では言えなかったこと及び質問出来なかった事を本音で話し合うセッションです。

会 場：大阪科学技術センター地下1階 会議室

総 括：豊田亘博（大阪大学 特任研究員）

司 会：新田 浩（(株)千代田テクノル 本部長）

司 会：内海知能（(株)アトックス 大阪営業所長）

挨 拶：小田啓二（神戸大学 副学長・教授）

挨 拶：朱 鉄吉（元 清華大学 教授）

2日目

平成30年11月16日(金) 9時30分～17時00分

9時30分～11時30分

テーマ2 福島事故を内部被ばくから考える

本セッションでは、福島原発事故後の内部被ばく全般に関する概要を説明して頂くとともに、内部被ばくに関する最近の話題から二つの報告をしていただきます。一つは、福島県住民の内部被ばく検査に用いられてきたホールボディカウンタに関する現状と課題、もう一つは比放射能の大きい不溶性微粒子（いわゆるセシウムボール）を吸入したときの内部被ばくの特徴に関する報告をしていただきます。なお後者は、日本保健物理学会に臨時委員会として設置された内部被ばく影響評価委員会において検討されてきた内容の一部を紹介して頂きます。

企画担当：(一社) 日本保健物理学会

座 長：石川徹夫（福島県立医科大学 教授） (5分)

演題 - 1：福島原発事故による内部被ばくの概要 (講演30分、質疑5分)

演 著者：石川徹夫（福島県立医科大学 教授）

演題 - 2：福島県内の住民のホールボディカウンタ：現状と課題 (講演30分、質疑5分)

演 著者：仲野高志（放射線医学総合研究所 主任研究員）

演題 - 3：不溶性微粒子被ばくの特徴 (講演30分、質疑5分)

演 著者：佐藤達彦（日本原子力研究開発機構 研究主幹）

総合討論： (10分)

休憩 11時30分～12時30分

12時30分～14時30分

テーマ3 法令改正の背景・意義とその対応

福島第一原子力発電所事故を契機に、原子力関係の法令が大幅に改正され、これに伴い障害防止法も根本的に改正されました。そして、これらの実施が目前に迫っています。なぜ、このように大改革されたようになったのか、その背景・意義について（元）内閣府原子力安全委員会事務局長の青山伸氏にお話し頂き、目前に迫った法改正の実施について関係者は今何をすべきかについて、京都大学環境安全保健機構の宮武秀男氏にお話をして頂きます。

企画担当：（一財）電子科学研究所

座長：飯田敏行 ((一財)電子科学研究所 理事)

演題 - 1：法令改正の背景・意義について (講演 50分、質疑 5分)

演者：青山伸 ((株)千代田テクノル 特別顧問 (元 内閣府原子力安全委員会事務局長))

演題 - 2：法改正に対する対応について (講演 50分、質疑 5分)

演者：宮武秀男 (京都大学環境安全保健機構)

総合討論： (10分)

休憩 14時30分～14時40分

14時40分～16時55分

テーマ4 太陽フレア・磁気嵐と宇宙線被ばく

巨大な太陽フレアが起きると磁気嵐が発生して極域できれいなオーロラが見られるようになるが、人工衛星の故障や宇宙飛行士・航空機乗務員の宇宙線被ばく、場合によっては地磁気誘導電流により大規模な停電が発生するなど、社会に大きな被害をもたらす可能性もある。本セッションでは、オーロラ研究の第一人者である片岡龍峰氏より太陽フレア発生のメカニズムや電磁パルスの地球への影響についてお話しをして頂き、それら伴う宇宙線被ばくの影響について佐藤達彦氏よりお話しをして頂きます。

企画担当：（一財）大阪科学技術センター

座長：山本幸佳 (電磁界 (EMF) に関する調査研究委員会 委員長)

演題 - 1: 太陽フレアと地球への影響 (講演 50分、質疑 10分)

演者：片岡龍峰 (国立極地研究所 准教授)

演題 - 2: 宇宙線被ばくの影響 (講演 50分、質疑 10分)

演者：佐藤達彦 (日本原子力研究開発機構 研究主幹)

総合討論： (15分)

コメンテーター：

閉会の挨拶

16時55分～17時00分

挨拶：山本幸佳 実行委員会副委員長 (大阪大学名誉教授)